

ト線量計による個人の被爆線量測定では1回約12時間の出勤で平均 $0.17 \mu\text{Sv/h}$ であった。

【まとめ】今回の震災で検死業務を担当し「1人でも多くのご遺体を遺族の元にお返しする」ために、困難な状況下での正確な検死の実体験ともに生前記録の重要性を再認識した。

【謝辞】この度の検死派遣に際し、関係諸機関ならびに大学関係各位の深いご理解とご協力に対し、感謝と御礼を申し上げます。

15) 東日本大震災における奥羽大学の取り組み (その2)

○佐々木重夫, 相澤 徳久, 菊井 徹哉, 鈴木 文章
鈴木 史彦, 長岡 正博, 西本 秀平
(奥羽大学歯学部災害支援班)

【緒言】この度の東日本大震災において、本学は社会貢献活動の一環として、身元不明遺体の検死ならびに避難者の口腔管理支援に対処するため、それぞれにチームを編成して取り組んだ。

演者らは、福島県歯科医師会および郡山歯科医師会と連携し、郡山市内の震災避難者の口腔に関する健康維持を目的として避難所を巡回して口腔管理支援を行っていた。

今回は初回活動日である平成23年4月13日からの概要について報告する。

【対象】東日本大震災の翌週3月17日に郡山市の避難所における被災者に対する口腔管理支援チーム(歯科保存学講座3名, 歯科補綴学講座2名, 成長発育歯学講座1名, 口腔衛生学講座1名)を発足した。出向避難所の選択は郡山歯科医師会との協議のうえ、本学から近い場所で郡山市民でない避難者が約100名存在する施設(福島県立郡山北工業高等学校, 郡山市青少年会館, 福島県農業総合センター)とした。活動内容は1. 避難所における歯科関連物資(歯ブラシ, 歯磨剤など: 支援物資に関しては郡山歯科医師会から供給)の整理・管理および搬入。2. 避難者に対する歯科医療相談(治療希望者に対して避難所近辺の歯科医師会会員の医院を紹介)とした。避難所支援日の決定は本学の業務に支障のないチーム各自の日程を調整, 活動時間は9:00~12:00として, 4月13日から活動を開始し, 移動には本学公用車を使用した。

【結果】1. 4月13日から5月31日までの活動

実日数は24日(福島県立郡山北工業高等学校: 3日, 郡山市青少年会館: 12日, 福島県農業総合センター: 9日)であった。2. 5月に入ってから避難者の歯科関連物資に対する希望内容が高度・細分化(軟毛の歯ブラシ, 顆粒入りの歯磨剤, 舌ブラシが欲しいなど)する傾向にあった。3. 3施設において歯科医療相談を受けた者は45名(男性17名, 女性28名)であった。4. 歯科医療相談を受けた者の年齢のうち6歳未満および60歳代~80歳代の合計が80.2%と高率を示した。5. 歯科医療相談の内容は歯周関連(歯肉腫脹, 歯の動揺など), 義歯関連(破折, 作製希望, 紛失など), 齲蝕関連(修復物脱落, 歯の破折など), その他(治療途中の相談, 口腔内診査・刷掃指導希望, 顎関節症, 嚥下障害など)の順に高かった。

【考察】1. 被災してからの時間の経過に伴って、生活に余裕が生じたことによって歯科関連物資に対する希望内容が高度・細分化してきたものと思われた。2. 活動時間が午前中であり, 女性に比較して男性の方が職場への復帰, 職探し, 住居探しなどを行っている者が多いことが歯科医療相談の男女差に反映したものと思われた。3. 通学者や働き手の年齢層が不在なために6歳未満および60歳代以上の高齢者の歯科医療相談が多く, 相談内容についても歯周関連や義歯関連が多かったものと思われた。

16) 東日本大震災における当科の対応

○佐久間珠恵, 宮島 久, 吉開 義弘, 竹内 聡史
御代田 駿, 近藤 祐, 宮嶋 千秋, 宗像 佑弥
(会津中央病院歯科口腔外科)

東日本大震災は史上最大規模の大災害となった。会津中央病院は会津医療圏の災害拠点病院であるが, 今回の災害に対しては, 浜通りおよび中通り地方からの後方支援を担う病院となった。歯科口腔外科では, 歯科口腔外科における医療難民への対応や他科への搬送症例に対する口腔ケアを中心に対応に当たった。今回, 演者らはその対応内容について, 実態を把握する目的に本検討を行ったので, その概要を報告した。対象は東日本大震災後, 当院に救急搬送および転院搬送された143例(以下, 口腔ケア群), および, 当科外来を受診した46例(以下, 外来群)とし, 口腔ケア群は医科カルテおよび口腔ケア施行時の当科チャート,